



たけどん

卒業式

令和4年度卒業式が3月4日

(土)に本校体育館で行われました。コロナ禍になってから入学した学年でしたが、式ではマスクを外し、新たな門出に晴れやかな笑顔を見ることができました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！！

卒業生の笑顔が見られました！



卒業生答辞

月日の流れは早いもので、寒く厳しかった冬も明け、暖かく穏やかな春の日差しを感じられる季節となりました。

今日三月四日、私たち百八十七名は、この竹台高校を旅立ちます。コロナ禍という状況であっても無事に卒業の日を迎えられることをとても嬉しく思います。

この状況の中、御臨席下さいました、ご来賓の皆様、保護者の皆様に、卒業生一同御礼申し上げます。

思い起こせば三年前。突然の新型コロナウィルスの流行。私たち卒業生は、入学式が挙行されないまま、新たな高校生活を迎えました。六月の分散登校から始まり、大半の行事が中止になりました。これから始まる新たな高校生活にたくさんの不安とそれでも少しの期待を感じていました。

一年生のとき、唯一行うことができた行事は三月の「球技大会」です。高校入学後、初めての行事にドキドキを感じていましたが、まだよそよそしさが残る私たちにとって、クラスメイトとの仲を深められるいいきっかけとなりました。

二年生になると、徐々に環境の変化にも慣れ、六月には、感染対策をした上で、クラスごとに動画を作成する文化祭を開催することができました。文化祭実行委員を中心に、クラスみんなで作業を進める時間は、高校生らしさを感じることができました。また、夏休み明けからは、新校舎での生活となり、体育館やプールができたことで、体育の授業で行うことができる種目の数が増え、また、広く、和やかな雰囲気のある図書室を以前より多くの生徒が利用するようになりました。

三年生では、全学年合同の「体育祭」を行うことができました。学年種目の「綱引き」では、綱を引くときの体勢や体重をかける方向を試行錯誤しながら練習し、クラス一丸となって取り組むことができました。

そして、人生の中でも大きな決断となる「進路」。「自分は何をしたいのか」、この難しい問いに答えを出さなければならない時が来ました。自分の将来について、深く現実的に考えることは、とても苦勞しました。講師の方の話を聞くなど進路活動が行われていましたが、実際、三年生になるまで実感をもつことができませんでした。多くの不安や迷いがある中、先生方や家族に沢山支えていただきました。そして、それぞれが進路実現に向けて、努力を重ね「合格」の文字を見ることができたときの安心感と喜びは、とても大きなものでした。これから始まる、新たな環境での生活も、精一杯頑張ります。

このように、三年間を振り返ると、友人や先生方や家族、沢山の人の存在がとても大きかったと思います。辛いときには、支えてくれ、嬉しいときには、一緒に喜びを分かち合ってくれた友人。そして、進路実現や私たちの成長を見守って下さいました、先生方や家族には、感謝の気持ちでいっぱいです。

在校生の皆さん、部活動や委員会でおたを助けてくれ、ありがとうございました。これから、大変なことや、苦勞し、悩むことが多くあると思います。しかし、その困難は、全て、皆さんの成長に繋がっていくはず。貴重な高校生活を大切に、これからの竹台高校を引っばっていきましょう。

最後に、ここまで育ててくれたお父さん、お母さん、また、三年間沢山のことを教え、支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。そして、三年間高校生活を共にした皆さん、明日からは、それぞれが、違った自分の道を歩み始めます。私たちの新たな日々が、自分自身の更なる成長をもたらす、充実した日々になるように、頑張っていきたいと思います。

以上をもって、答辞と致します。三年間、本当にありがとうございました。

令和五年三月四日 卒業生代表 市川 幸

3年宿泊行事

令和5年2月28日(火)～3月1日(水)に1泊2日で3学年が神奈川県横浜市と鎌倉市に行ってきました。生徒たちは横浜と鎌倉の歴史と独自の文化の理解を深めつつ、高校生活の最後の行事として楽しむことができ、いい思い出となったようです。

